

令和6年度自己評価表

(様式1)

愛媛県立野村高等学校・本校(39)

教育方針	豊かな自然、地域社会にはぐくまれながら、学科の特質と生徒の実態に即応した特色ある教育を実践する。人格の完成を目指し、調和のとれた人間性、高い知性、豊かな創造性の育成を図り、地域、社会の発展に貢献できる、主体性に富んだ広い視野を持った人間を育成する。	重点目標	新しい時代をたくましく生き抜く人材の育成 ～ 地域とともに、未来を探究する ～ 1 学校生活の基本の徹底を図り、社会から信頼される生徒を育てます。 2 確かな学力の定着を図り、希望する進路の実現を目指します。 3 部活動の活性化を図り、心身ともに健康で逞しい人材を育てます。 4 地域との連携・交流を重視し、地域を愛し、地域に貢献できる人材を育てます。 5 人権意識の高揚を図り、豊かな人間性と思いやりの心を持った生徒を育てます。 6 生徒一人一人を大切にされた個別指導や教育相談の充実を図ります。 7 読書や芸術に親しみ、豊かな感性や自己表現力を育てます。
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
PTA活動	保護者への情報発信及び学校との連携の充実	生徒の保護者や家族、地域の方も参加しやすいPTA行事を開催し、PTA活動を一層活性化させる。防災訓練の見直しをし、防災意識の高揚を図る。	B	PTA親睦バレー大会を復活させ、保護者と教職員約30名が交流を深めることができた。防災避難訓練の教職員の分担を見直し、有事の際の動きを改めて確認することができた。	次年度も親睦バレーや高校祭でのPTA研修を実施し、参加者が増加するよう工夫していききたい。予告なしの訓練や、昼休みや放課後の避難等の訓練ができないか検討していききたい。
学習指導	家庭学習の充実	1日平均3時間以上の家庭学習時間確保と自主的な取組により、学力の向上を図る。 A 3.0時間以上 B 2.8時間以上 C 2.6時間以上 D 2.4時間以上 E 2.4時間未満	C	調査時における、各学年の家庭学習時間の平均について、1年生2.1時間、2年生3.2時間、3年生2.9時間となっており、全体平均は2.7時間であった。1、2学期から全体的にわずかな増加が見られた。	各学年の主任、正副担任、教科担当が協力して、家庭学習の意義について理解させ、時間の確保を促す。家庭学習記録は全クラス毎月提出してもらい、生徒が目標を立て、振り返りができるように、また、教員が学習時間の少ない生徒と面談をしたりするなどの今後の具体的な対策資料として活用していく。
	教科指導の充実	学校生活充実度向上を目指し、自己管理能力を育成するとともに、小テストや課題の精選等きめ細やかな指導により、学力の向上を図る。教科横断型授業や研究授業を実施し、相互授業参観を通して、各教員の授業力を向上させる。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 60%以上 E 60%未満	B	小テストや課題の精選等きめ細やかな指導はできているが、生徒の学力向上までには至っていない。生徒自身の自己評価はBやCが見られたが、生徒からの学校評価はすべての項目において、A評価であった。教科横断型授業や研究授業、学校訪問も含めた相互授業参観実施からは、各教員の授業力の向上につながっていると感じている。	今後も、生徒一人一人に対応できるよう小テストや課題の精選等きめ細やかな指導を目指し、生徒の学力向上につなげていきたい。教科横断型授業や研究授業、相互授業参観実施は、今後も各教員の授業力の向上につなげていくため、実施していく。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	心のこもった挨拶の励行、身だしなみの徹底100%5分前登校の徹底、交通安全の推進を通して保護者、地域の方々との連携を深め、校内外での事故・事件・違反0を目指す。安心、安全な学校生活環境を構築する。	B	校内での挨拶は良好であった。地域の方々への挨拶については改善傾向である。身だしなみは大きく崩れることなく、良好に過ごせている。事件事故も発生していない。	挨拶については、大切さを呼びかけ自主的にできるようにしていきたい。身だしなみや、校内の安心、安全な環境についても、自立心を育てる取組をしていきたい。
特別活動	自主的活動の充実	ボランティア活動、生徒会活動、学校行事に主体的に参加させる。	B	体育祭、高校祭では生徒が主体となり、意欲的に活動することができた。	生徒会を中心に、多岐にわたり生徒自身が主体的に取り組めるように関わらせていきたい。
進路指導	進学指導の充実	各学年付の進路課員による生徒面接を各学期1回以上実施する。	D	面談を実施できた学年とそうでない学年があった。また、どの学年も各学期1回以上の実施には至らなかった。	年度当初に計画を立て、継続的に実施できるようにしていく。また、進路課員だけではなく、副担任や学年付けの先生方に協力してもらいながら実施していく。
		進学習目標達成の満足度100%を目指す。	A	2月に実施したアンケートの結果、進学・就職ともに生徒の進路目標達成の満足度100%を達成することができた。	第1志望の大学等への進学が決まらなかった生徒がいる中での満足度100%を達成できた。来年度は自己努力目標も100%を達成できるよう、進学指導の早期取組、徹底を行っていききたい。
	難関大及び国公立大10名以上の合格を目指す。 A 10名以上 B 7名以上 C 5名以上 D 3名以上 E 2名以下	A	総合型・学校推薦型で11名、一般(前期試験の結果のみ)で2名の計13名の生徒が国公立に合格することができた。	生徒数が減少している中での国公立大学合格者数の増加は、各先生方のサポートの賜物である。そんな中で出てきた反省点を踏まえ、来年度はより一層教職員全体で進路指導を実施できるような形態を形成していきたい。	
	就職指導の充実	就職希望者全員の就職を実現させる。	B	就職希望者12名中11名が内定している。未決定の生徒は公務員試験を受験し、結果待ちである。	各企業とも人手不足のため、求人状況・内定状況ともに良いが、本人の適性によりマッチングさせるように企業研究や企業訪問などを実施したい。
保健管理	保健管理の充実	健康観察や安全点検により、健康意識、安全意識を高め、日本スポーツ振興センター申請件数減を目指す。保健だよりを通して、保健指導の機会を確保するとともに、自らが自分の健康を管理していく力を身に付けさせる。	B	日々の健康観察や毎月の安全点検を通して、病氣やけがへの対策を意識付けることとできた。保健だより等でも予防を喚起することができた。悩みの調査を年間を通じて行い、悩みを抱えている生徒の把握に努め、その都度担任や学年で対応することができた。	日本スポーツ振興センターへの申請件数は依然としてあるため、次年度も安全点検や啓発活動を継続していきたい。悩みの調査に表れたことだけにとどまらず、悩みを抱えていても発信できない生徒の把握に努め、担任だけでなく教員全体で対応するように努めたい。「心身の健康」という意識で、呼びかけや観察、職員間の連携を継続していきたい。
業務改善	職務の効率化及び快適で働きがいのある職場環境の整備	会議の精選、職員提出書や職員・保護者連絡等のペーパーレス化、不要な押印の廃止など、職務全般に効率化を図る。魅力的な学校づくりを通して、多忙感の解消及び職務充実感を高める。	B	本年度も職員朝礼・運営委員会の削減や書面開催を実施した。また本年度よりノー残業・部活動デーを設定することで教職員の多忙感解消を広げることができたと考えている。また次年度に向けて校務分掌の見直しも行った。	今後も定時退勤の推奨や清掃時間の削減など業務内容を再度検討し、教職員の多忙感解消への取組を推進していく必要がある。また小規模化に伴う教員数削減による職務多忙化防止のため、校務分掌の再構成を行ったが、部活動についても精選を進行していきたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
読書指導	図書館指導の充実	「朝の読書の時間」の改善や呼びかけ等により、図書館の利用につなげる。読書を通じて読解力の向上を目指す。 平均貸出数 A 10.0冊以上 B 8.0冊以上 C 6.0冊以上 D 5.0冊以上 E 3.0冊未満	C	貸出総数は1132冊、平均7.5冊（3/13日付）である。昨年度平均8.3冊（3/16日付）例年なみだが、昨年度より目標数値を上げたこともあり評価はCである。 電子書籍の貸出総数は167冊（3/13日現在）昨年度97冊（3/16日付）。基本的には検定本や進路サポート、料理本などの利用が多かったが、小説についても徐々に伸びている。	「朝の読書」の時間における読書活動は、意識付けもあり、昨年度より活性化している。また、ビブリア・ライティングやバーコード利用による貸出といった利便性の手助けもあり、全体的に若干の読書意識の向上がみられる。継続して啓発などを行っていききたい。 電子図書サービスを利用した、読書意識の高揚とより積極的な利用を促していく。
情報教育	ホームページの充実	CMS方式によるタイムリーな情報発信を行う。また、個人情報保護に努める。 HP更新回数 A 週7回以上 B 週5回以上 C 週3回以上 D 週3回未満 E 更新なし	A	直近4か月(9/1～12/31)のHP更新回数は週8.1回（昨年度5.5回）だった。	基本的には、各割当て（当番）の順守を徹底する。 学校行事や部活動、生徒会活動などについては、HPの割り当て当番になっていなくても、生徒の様子などを随時の発信していく。
	教育支援クラウドサービス	Microsoft365教職員理解度100%	B	アンケートの結果、基本的な操作ができる割合は97%であった。基本的な操作や理解は概ね出来ている。	さらに理解度を深められるような研修の機会を継続できる方向で検討したい。アンケートなどはフォーマズを基本とし、実際に使う場面を増やすようにする。
教相育談	教育相談の充実	生徒が抱える問題の早期発見に努め、不登校生徒ゼロを目指す。	B	関係職員との連携もスムーズで、SLAIによる呼び出し相談も充実させることができた。	関係職員との連携だけでなく、職員全体で情報を共有し、より多くの職員で生徒を見守っていく。
特別支援教育	特別支援教育の充実	生徒の実態を把握し、SLAや支援員との連携を図り、計画に基づいた支援を進めることにより、学校生活を円滑に送らせる。校内委員会、ケース会議などで、情報の共有、連携した支援体制の構築を図り、該当生徒を集団で支援する体制を作る。	B	支援員の協力のもと、生徒の課題や困り感への対応をその都度行ってきたが、生徒自身が課題を改善できるまでには至っていない。	支援を要する生徒への対応方法を、他の生徒への対応にもつながるように工夫させていく。それによって、課題をもつ生徒一人一人が、自ら課題に気づき、改善していけるようにさせたい。
同和・人権教育	人権意識の高揚	年間5回以上の研修や研究活動、交流学習等の人権委員会活動を活性化させ、人権意識を高めることにより、人権問題の解決を図る実践力を養う。 A 5回以上 B 4回 C 3回 D 2回 E 1回以下	B	人権委員会の校内研修は、概ね計画どおりに実施できた。また、西予市内の他校生徒とともに学んだ校外研修には、人権委員に加えて有志生徒も参加しており、交流学習の広がりがみられた。	校外研修等で、人権委員を中心に有志生徒の参加を促し、輪を広げていきたい。また、市人権啓発課や近隣福祉施設等と連携しながら、地元の中学校との交流活動の方法を考えていく。
農業教育	農業後継者育成指導の充実	農業の担い手を育てる。 卒業生の担い手率 A 12.5%以上 B 10%以上 C 7.5%以上 D 5%以上 E 5%未満	A	今年度卒業生の農業の担い手率は33.3%である。卒業生12名中4名が将来の農業後継者として進学する。また昨年に引き続き、国立大学に1名が合格した。	今後も畜産科として、高い専門性をもった生徒を育成するための実践的な教育を行っていききたい。また近年学科の特性により、動物飼育員を希望する生徒も増加傾向である。生徒の様々なニーズに対応できるようにしていきたい。
	農業クラブ活動の充実	農業クラブ県大会の各種発表・競技会において優秀賞1つ以上、全国大会での優秀賞1つ以上を目指す。 入賞率 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 40%以上 E 40%未満	A	今年度は第1回農業クラブ各種発表県大会において意見発表で優秀賞1つ、家畜審査競技県大会において最優秀賞2つ、優秀賞2つ、総合の部最優秀賞1つ、農業クラブ全国大会において、家畜審査競技乳牛の部で最優秀賞1つ、第2回農業クラブ各種発表県大会において、意見発表で優秀賞1つを獲得した。今年度全ての各種発表・競技会で1つ以上の優秀賞を獲得しており、達成率は100%である。また今年度は家畜審査競技で日本一になるなど、農業クラブ活動と日々の学習の成果が結果として現れた。	農業クラブの各種発表・競技会の成績は、日々の農業教育の結果である。今後も日々の授業や実習を大切に、生徒が高い専門性を身に付けられる教育を行っていききたい。また生徒が3年間で様々な取組ができるよう、地域や企業、大学等とも連携し、魅力ある活動を行っていききたい。
学校魅力推進	全国募集の充実および公営塾の円滑な運営	地域みらい留学などの活動を通して効果的な全国募集を行い、本校への入学志願者数を増やす。 公営塾との連携や女子下宿生への支援を行うことにより、遠方からも安心して入学してもらえる環境づくりに努める。	C	フェスイン東京では本校生徒を伴って参加することによって2日間で31組の中学生とその保護者に対応するなど、地域みらい留学事務局が主催するすべての企画に参加して本校の魅力をPRできた。 公営塾関係者によるワーキンググループ会議や同窓会等の関係者による女子下宿の会議を通して、学校と塾との意思疎通や塾の魅力向上を図るとともに、新しいシェアハウスの在り方を市の職員や地域住民と検討した。	来年度は大阪での対面による説明会が予定されているので、全国募集の在校生とともに参加することにより、本校プールの集客力アップを図る。 今年度、担当教員を悩ませた女子下宿訪問を、来年度は年度当初から訪問頻度や教員の配置を改善し、教員の負担軽減と生徒の健康で清潔な生活習慣の確立との両立を目指す。
寮務	基本的生活習慣の確立と安全管理の徹底	点呼、巡視による生活指導や設備などの点検を行い、寮内での事故をゼロにする。さらに、社会人に向けての準備期間として、自立した生活態度を身に付けさせる。	C	寮内での事故等はなかったが、1年生の中に、ごみの出し方が徹底していない者がおり、特に夏季に生ごみが寮内で臭気を出したり、分別の不徹底で区長さんから指導を受けるなどの不手際は今年は何度かあった。該当生徒に指導を続け、年度末には改善が見られた。	寮生の生活習慣の改善、徹底が今後の課題である。特に県外からの入学生には、基本的な生活習慣ができていない生徒もおり、今後も指導が必要であるが、このような生徒が今後増えていくことが十分予想される。入学時に、本人、保護者に対して、寮には規則があること、守れない場合の対応（退寮）などを周知徹底するとともに、寮生同士でも意識を高め、舎監全員で根気強く指導していく必要がある。
施設管理	教育環境の整備充実	学習環境の充実・向上を図るとともに、施設・物品の修繕は早期対応に取り組む。	B	日頃より職員の実働整備により、校舎内外の美化整備に努められている。 施設・物品の修繕においても早期対応に取り組み、農場用軽トラックの導入ができた。	施設の老朽化による修繕においては、長寿命化対策に沿って希望申請しているが、愛媛県立学校振興計画と関連しての大規模修繕が進められるため、現状における施設・設備を維持修繕し学習環境の保全を行っていく。 令和7年度において特別教室等のエアコン設置が予定されている。